

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2007年12月17日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム いきいき館 (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 石松 成子 氏名 浜田 千里
事業所側対応者	職名 管理者 氏名 田中 穂積 ヒアリングを行った職員数 3名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 <ul style="list-style-type: none"> ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670300724号		
法人名	有限会社 いきいきケアサポート		
事業所名	グループホーム いきいき館		
所在地	鹿屋市東原長6006番地1 (電話 0994-42-7112)		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成19年12月17日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】 (19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤3人,	常勤換算14.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有 (円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6	要介護2	3		
要介護3	6	要介護4	1		
要介護5			要支援2	2	
年齢	平均 87.8 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉記念病院 ・ さかもと歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、鹿屋市郊外の眺望のよい静かな住宅地の恵まれた環境の中にある。居室の配置、ゆとりのある部屋など細かい部分にまで気配りが見られ、利用者の視点を尊重した設計となっている。地域との交流も積極的に行っており、地域へ認知症の理解を深めるための研修や文化祭への参加などして、楽しく暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	契約書への入居者の権利・義務の明記、及び緊急時の全職員の対応能力の向上については改善されていないが、入居者の金銭管理への支援及び注意の必要な物品の保管管理は取り組みがなされ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義や目的を職員に伝え、全職員で評価に取り組み、サービスの質の確保に活かそうと努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に家族や地域住民代表・行政代表など参加を呼びかけ、会議での意見を具体的な取り組みにつなげ、消防分団との防災訓練を実施するなど、意見をサービスの質向上に活かしている。市や地域の同業者との連携も密にとり、協働で研修を計画し地域の福祉の充実に貢献している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回家族会を開催し、多くの家族に参加してもらい意見を聞く機会を設けている。運営推進会議に家族の代表にも参加を呼びかけ意見を引き出し、運営に反映するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として町内会に加入し、花見や研修にも参加している。近所の子供が遊びに来たり、小学校の運動会や文化祭にも参加するなど積極的に地域の人と交流している。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松 成子/調査員 浜田 千里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に運営方針として理念を掲げ、その中から地域の中でその人らしく暮らしつづけることを支えるサービスとして具体的な理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングや事務所の目に付きやすい所に明示し、職員採用時にまず理念を伝え、ミーティングの時共有し、理念に沿った介護を提供するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として町内会に加入し、花見や研修にも参加している。近所の子供が遊びに来たり、小学校の運動会や町内の文化祭にも参加するなど積極的に地域の人と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を職員に伝え、全職員で評価に取り組み、サービスの質の確保に活かそうと努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に家族や、地域住民代表・行政代表など参加を呼びかけ、会議での意見を具体的な取り組みにつなげ、消防分団と合同の防災訓練を実施するなど、意見をサービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は地域の連絡協議会の事務局を引き受け、市担当者と連携を密に取り研修を計画し地域の福祉の充実に貢献している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事や入居者の日頃の様子など写真等を掲載したホーム便りを発行し、毎月送付している。病院受診は必ず報告し、職員の紹介は家族会の時にしている。金銭は立替払い後、請求しており預かり金はない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に相談・苦情窓口を明記し、入居時に説明している。年2回、家族会を開催し家族の意見を聞く機会を設けている。運営推進会議にも家族代表に参加を呼びかけ意見をもらい運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動を最小限に抑えるため、勤務条件などに配慮し、働きやすい職場作りに努めている。新規採用時に職場内研修を計画的に行い、利用者への影響に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成の重要性を認識し、県や地域の研修に年1回は必ず参加できるようにしている。毎月の職員会議の際にも学習の時間を設け、働きながら技術や知識を身につける工夫をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域の連絡協議会に加入し、管理者はリーダーとして研修会など計画・実行し、同業者と連携を図り交流している。認知症介護の実習施設として研修生を受け入れ、協働や交流を通してサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、本人や家族にホームの見学を勧め、病院や自宅訪問を行っている。利用者がホームや職員に徐々に馴染めるよう、情報収集など家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者・職員は利用者を家族に接する気持ちで介護している。教えてもらったり、手伝ってもらった時は感謝の言葉を言うなど、それぞれの性格や考えを認め、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、意向や思いを把握するよう努めている。意思疎通が困難な方は、家族から暮らしぶりや生活歴をきき、言葉や表情から推測し、利用者の視点でケアしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	更新前に本人や家族からの思いや意見を聞き、本人がより良く暮らすための課題やケアについて主治医の意見を聞き、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、3ヵ月ごとに評価を行い計画の見直しを行なっている。評価や利用者の状態変化、その時々々の気付きなどを反映した介護計画の見直しについて、取り組みはなされている。		全ての状況変化等に対応する工夫が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時の通院介助や入居者の希望による墓参りなど柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望による主治医に、定期的に受診している。受診や通院については家族と連絡し、柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の事業所の対応については入居時に説明し、本人の状況を見ながら、家族や主治医等と話し合っって対応する方針である。医療連携体制を近々とする予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は採用時や職員会議で職員に入居者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保について話しており、事業所全体でさりげない言葉掛けや対応ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを大切に、起床や食事時間・食事の場所・買い物・散歩など入居者のペースを大切に希望に添って支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の野菜やチラシの食材を入居者と見ながら献立を決め、買い物も同行し調理や盛り付けなど手伝ってもらい、職員も一緒に楽しく食事をしている。月に1回程度外食に出かけ楽しみな活動の一つにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	他の活動をするために、基本的に曜日や時間を決めてはいるが、夏場や本人の希望があれば臨機応変に対応している。浴室も広く、同性介護を基本とし、時には温泉に出かけたり、入浴を楽しむ支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることを把握し、自室の掃除や食事の準備・洗濯干し・洗濯物たたみなど役割をもってもらっている。大正琴・文化祭の作品作り・デッキでのお茶のみ・公園でのグランドゴルフ等々張り合いや喜びのある暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園での散歩やグランドゴルフ・バラ園見学・桜や菊の花見・ドライブ・墓参り等々一人ひとりの希望に添って外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は日中鍵を掛けることの弊害について、学習し理解できている。見守りを行っているが、やむを得ず、外出傾向のある利用者は家族と話し合い、GPSをお守りのようにつけ安全に過ごせるよう工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地元消防団の協力をもらい、夜間想定避難訓練を実施している。飲料水や食糧・排泄用品も準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスも考慮し決めている。体重管理も毎月測定し、食事の摂取量・水分摂取量もチェックし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレの配置・台所の広さなど細かい点まで気配りし、利用者の視点にたった居心地のよい共同空間を提供している。日当たりや窓から見える景色など自然に季節感を感じられる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談し、使い慣れた椅子やダンス・テレビ等持込、手作りの花やカレンダーなど飾り、その人らしい居室になっている。ベッドの配置も安心して過ごせる工夫がある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。